

消化器症状のみで経過したイヌサフラン中毒の1例

た なか げん たい なべ しょう た
 田 中 元¹⁾ 田 邊 翔 太²⁾
 しら いし かん ま おお い しん じ
 白 石 貫 馬³⁾ 大 居 慎 治⁴⁾

キーワード：イヌサフラン， コルヒチン， 下痢， 食中毒， 植物毒

要 旨

症例は60歳女性。自宅で栽培しているイヌサフランの球根2/3個を誤って摂取した。摂取約8時間後から腹痛，水様性下痢が出現した。下痢が持続するため，摂取約13時間後に当院救急外来を受診した。病歴からイヌサフランを摂取したことによるコルヒチン中毒と診断し，補液や活性炭の投与を行ったところ，入院2日目には下痢は消失した。経過中，汎血球減少をはじめとした重篤な症状を認めなかった。

イヌサフランは園芸用として一般に広く販売されており，誤って摂取する事例が散見される。イヌサフランはコルヒチンを含有し，重篤な場合，汎血球減少や敗血症により死に至る事例が報告されており，厚生労働省が注意喚起を行っている。今回，イヌサフランの摂取によりコルヒチン中毒をきたした症例を経験したため，文献的考察を加えて報告する。

< は じ め に >

イヌサフラン (*Colchicum autumnale*) は園芸用として栽培され，秋に開花する球根植物であるが，花・葉・球根に大量のコルヒチンが含まれるため，葉の外見が類似しているギョウジャニンニクとの誤食による中毒が問題となっている。

イヌサフラン中毒は日本国内で年間に2，3件

程度しか報告されないが，含有されるコルヒチンにより嘔吐・腹痛・下痢などの消化器症状を呈し，重篤な場合は汎血球減少や多臓器不全から死亡する例が報告されている。今回，イヌサフランを誤摂取したことでコルヒチン中毒による消化器症状をきたした症例を経験したため，文献的考察を加えて報告する。

< 症 例 >

患者：60歳，女性
 主訴：腹痛，水様性下痢
 既往歴：統合失調症，糖尿病，高血圧，脂質異常症

Gen TANAKA, et al.

- 1) 松江赤十字病院 前期研修医
 - 2) 松江赤十字病院 救急部
 - 3) 松江赤十字病院 血液内科
 - 4) 松江赤十字病院 総合診療科
- 連絡先：〒690-0856 島根県松江市母衣町200
 松江赤十字病院